

平成30年度 佐賀県立金立特別支援学校 学校評価計画

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
○ 児童生徒の一人一人の状況(障害の状態や発達段階、特性)に応じた教育を実践する。 ○ 児童生徒が「明るく」「正しく」「たくましく」生きていく力を育成する。	(1)個に応じた教育の実現を図り、生きる力を育む。 (2)児童生徒の進路指導に努め、卒後の自立と社会参加を目指す。 (3)健康・安全教育の充実を図ると共に思いやりの心を育て、豊かな人間性を育む。

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

(1) 個に応じた教育の実現を図り、生きる力を育む。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●教職員の専門性の向上	①個別の指導計画に基づく指導の充実 ②小中高一貫した自立活動の充実 ③職員研修の充実 ④職員の授業実践研究	①個々の児童生徒に応じた適切で具体的な目標と手だてを設定し、指導内容の充実を図る。 ②自立活動について、各職員毎の知識や理解を深める。 ③時機を得た研修内容を設定することで、研修に対する意識の向上を図る。 ④児童生徒の自立と社会参加に向けた資質・能力を育む指導・支援の在り方を探求する授業実践や事例研究を個人研究の形態で行うことによって、職員一人一人の指導力の向上を図る。	①個別の指導計画に基づいて実践・評価し、ケース会等で改善に取り組む。また、その評価を保護者に通知表等で伝える。 ②経験に応じた研修会を設定することで研修項目を増やし、職員研修の機会を充実させる。 ②校務分掌を中心に、実際の授業場面において、授業者に対し具体的な助言や支援を行う。 ③実践力を高めるために、研修内容に講義だけでなく実技に関する演習等を取り入れる。 ④各教職員が一年を通して個人のテーマ等を基に研究を行い、その成果と課題を所属する研究グループ内で報告し合う形を設定する。報告会后、全職員分の研究内容を収集し、ライブラリーの活用を目指す。
教育活動	○教育の質の向上に向けたICT 利活用教育の実施	①支援機器や学習用PC、電子黒板等を利用した学習支援研修の充実 ②情報モラル教育の実践	①教職員のニーズに即したICT機器の選択と利活用研修を実施する。 ②児童生徒の実態や発達段階に応じた情報モラル教育の充実を図る。	①ICT機器の利活用に関する研修会を実施し、教師のニーズに即したICT機器の選択に努める。 ②家庭におけるインターネット等の使用においては、家庭や関係機関と連携を図り、指導を行う。

(2) 児童生徒の進路指導に努め、卒後の自立と社会参加を目指す。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●進路指導	①将来の自立と社会参加を意識した指導の充実 ②学校、家庭、関係機関が協働して進めるキャリア教育の推進	①各学部・学年に応じた進路支援に対する教職員の意識を高め、将来を見通した指導に努める。 ②学校、家庭、関係機関との一層の連携を推進し、キャリア教育の取組について共通理解を図る。	①研修を行うとともに、進路指導に特化して資料を集約し、活用できるようにする。 ①新転任者の職場体験研修を実施し意識を高めるとともに、職場開拓につなげる ②学校だよりやホームページなどの情報発信を行う。
教育活動	○地域との連携	①交流及び共同学習の推進 ②学校情報の公開	①交流及び共同学習を積極的に進めていくことで、地域の方々と触れ合いの機会を増やし、将来の地域生活の基盤を培う。 ②学校だよりやホームページにより、学校情報の積極的な公開を図る。	①正しい理解の促進を図るために、交流及び共同学習の授業を実施する前に、相手校に対して十分な情報提供を行う。また、これまでの交流記録や新聞掲載記事等の資料を活用し、より連携を深める。 ①地域の活動など、機会をとらえて積極的に参加する。 ②行事の報告や行事予定などの情報を、速やかに公開し、地域との連携を深める。

(3) 健康・安全教育の充実を図ると共に思いやりの心を育て、豊かな人間性を育む。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○安全な教育環境の構築	①危機管理体制の整備 ②職員研修の充実	①危機事象への対応手順の周知徹底と定着を図る。 ②危機事象に対する意識の向上を図る。	①危機管理マニュアルを見直すと共に避難訓練等を実施し、対応手順の確認を行う。また、感染症対策についても対応手順に沿って迅速に対応し、感染拡大を防ぐ。 ②実際に対応できる力を育成するために、研修は講義だけでなく実技を取り入れることで理解を深める。
教育活動	●いじめの問題への対応	①いじめの防止と早期発見	①保護者や関係機関との連携を図り、早期からの発見に努める。 ①多様なケースに対応できる校内の相談体制をつくる。 ①児童生徒会活動の充実を図る。	①いじめアンケートを各学部で実施し、学校生活での実態を把握し、情報を共有する。 ①教職員の意識の向上を図るために、いじめ防止対策委員会を定期的に開催し、いじめの防止に取り組む。 ①児童生徒会の活動目標等に関連項目を盛り込む。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	●地域支援	①特別支援教育のセンター的機能の充実	①地域の学校で特別支援教育を担っている教職員に対して相談支援に努める。	①特別支援教育コーディネーターを5名配置し、要請に基づき派遣し相談支援を行う。また、必要に応じて専門性のある教職員も同行し、支援に当たる。 ①支援や相談等に関する情報収集及び情報提供を行う。
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	①教職員の連携促進 ②業務効率化の推進	①学校運営を組織的に行い、業務の効率化と分散化を図り、業務の内容の質を維持しながら、個人の過重な負担を防止する。 ②情報・データの共有化を図る。	①運営委員会・学部主事会等で学部間・分掌部間の連携を強化しながら、組織の連携・協力体制を構築する。 ②共有フォルダを利用し、様式、業務データ、情報等の共有化を行い、効率的な業務遂行に努める。

●は共通評価項目、○は独自評価項目